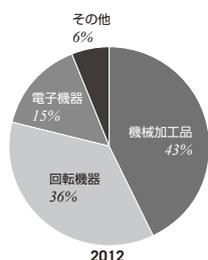
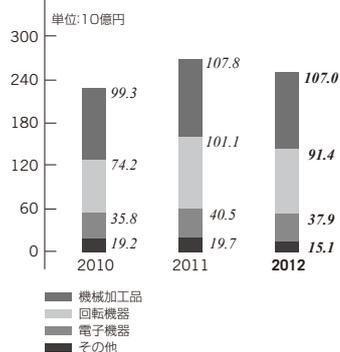


セグメント別売上高構成比



セグメント別売上高



売上高原価率  
売上高販売費及び一般管理費比率



### 売上高

当会計年度の日本経済は、東日本大震災や原子力発電所事故の影響により大きく落ち込みましたが、昨年の夏にかけて急速に回復が進みました。その後、欧州の政府債務問題による欧州経済の減速や円高等により輸出が減少し、内需の改善が見られたものの横ばいの状況が続きました。米国経済も、最大の構造問題である住宅市場の需給バランス調整に時間がかかっておりますが、労働市場の改善が進み、個人消費や設備投資の持ち直しとともに緩やかな回復が続きました。欧州経済は、政府債務問題の拡大に伴い個人消費や企業の設備投資が減少し、各国の財政緊縮策もあり減速しました。アジア地域の経済については、大規模洪水の被害が大きかったタイは落ち込みましたが、中国は内需を中心に拡大が続き、その他のアジア諸国は緩やかな回復が続きました。しかし、下半期に入り欧州経済の減速が鮮明になった影響を受け、回復が鈍化しました。

当社グループは、かかる経営環境下で、収益力のさらなる向上を実現するために、徹底したコスト削減、高付加価値製品と新技術の開発及び拡販活動に注力してまいりました。東日本大震災による生産、販売への大きな影響が一段落したところに発生したタイの大規模洪水では、全5拠点の内、2拠点は浸水被害を受けましたが、主力3拠点は被災を免れることができました。大規模洪水の影響は月を追うごとに急速に回復しておりますが、生産、販売への影響と円高により、売上高は251,358百万円と前会計年度に比べ17,781百万円(△6.6%)の減収となりました。

### 売上原価

当会計年度の売上原価は198,506百万円となり、前会計年度に比べ3,639百万円(△1.8%)減少しました。東日本大震災、タイでの大規模洪水、円高等による売上高減少に伴い生産が減少しました。売上高に対する比率は、売上高の減少及びレアアース価格の高騰等による原材料価格の上昇により、前会計年度に比べ3.9ポイント上昇して79.0%となりました。

### 販売費及び一般管理費

当会計年度の販売費及び一般管理費は44,253百万円となり、前会計年度に比べ578百万円(△1.3%)減少しました。売上高に対する比率は前会計年度に比べ0.9ポイント上昇して17.6%となりました。生産・販売の減少に対応して徹底したコスト削減に努めたことにより、販売費及び一般管理費は前会計年度に比べ減少しました。

### 売上原価、販売費及び一般管理費

3月31日に終了した各会計年度	単位: 百万円				
	2012	2011	2010	2009	2008
売上高	¥251,358	¥269,139	¥228,446	¥256,163	¥334,431
売上原価	198,506	202,145	175,286	197,138	253,710
売上高原価率	79.0%	75.1%	76.7%	77.0%	75.9%
売上総利益	52,852	66,994	53,160	59,025	80,721
販売費及び一般管理費	44,253	44,831	41,101	45,619	49,959
売上高販売費及び一般管理費比率	17.6%	16.7%	18.0%	17.8%	14.9%

\*企業会計基準の改正に伴い、2011年度からセグメント区分を変更しました。

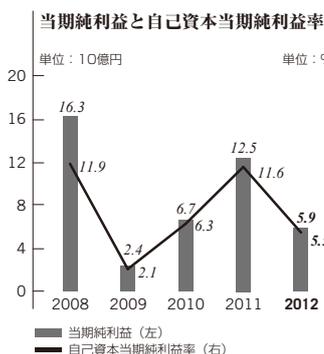


### 営業利益

当会計年度の営業利益は8,599百万円となり、前会計年度に比べ13,564百万円(△61.2%)の大幅な減益となりました。東日本大震災、タイでの大規模洪水、円高等の影響による売上高減少、レアアースを中心とした原材料価格の上昇等により、営業利益は大きく減少しました。売上高営業利益率は3.4%と前会計年度から4.8ポイント低下しました。詳細については、「セグメント情報」をご覧ください。

### その他収益・費用

当会計年度のその他収益・費用(営業外損益及び特別損益の純額)は3,048百万円の費用・損失となり、前会計年度に比べ459百万円費用・損失が減少しました。主なものは、タイ大規模洪水に伴う受取保険金の一部9,614百万円、災害による損失7,844百万円に加え、支払利息2,321百万円、キーボード事業縮小等による事業構造改革損失1,603百万円、投資有価証券評価損831百万円、減損損失291百万円です。



### 税金等調整前当期純利益

以上の結果、当会計年度の税金等調整前当期純利益は5,551百万円となり、前会計年度に比べ13,105百万円(△70.2%)の大幅な減益となりました。

### 法人税等

当会計年度の法人税、住民税及び事業税として2,621百万円、法人税等調整額として△1,363百万円を計上したため、法人税等合計は1,258百万円となり、前会計年度に比べ4,286百万円の減少となりました。実効税率は、タイにて洪水保険金収入に対する税務上の恩典があったこと、キーボード事業縮小に関連して繰延税金資産の計上を行ったこと等により、前会計年度の29.7%から22.7%へ減少しました。

### 少数株主利益(損失)

当会計年度の少数株主損失は1,629百万円となり、前会計年度に比べ2,276百万円の減少となりました。これは、合併事業であるミネベアモータ株式会社の利益が悪化したことによるものです。

### 当期純利益

以上の結果、当会計年度の当期純利益は5,922百万円となり、前会計年度に比べ6,543百万円(△52.5%)の大幅な減益となりました。潜在株式調整前の1株当たり当期純利益は15.63円と、前会計年度の1株当たり当期純利益の32.61円から16.98円減少しました。

### 利益

	単位: 百万円				
3月31日に終了した各会計年度	2012	2011	2010	2009	2008
営業利益	¥8,599	¥22,163	¥12,059	¥13,406	¥30,762
売上高営業利益率	3.4%	8.2%	5.3%	5.2%	9.2%
その他収益・費用					
(営業外損益及び特別損益の純額)	(3,048)	(3,507)	(2,798)	(6,572)	(5,508)
当期純利益	5,922	12,465	6,662	2,441	16,303
売上高当期純利益率	2.4%	4.6%	2.9%	1.0%	4.9%
1株当たり当期純利益(円):					
潜在株式調整前	15.63	32.61	17.20	6.18	40.86
潜在株式調整後	15.54	—	—	—	—
自己資本当期純利益率	5.5%	11.6%	6.3%	2.1%	11.9%
総資産当期純利益率	2.0%	4.4%	2.4%	0.8%	4.8%

## 財政状態

### 財務方針と流動性の確保

当社グループが展開するさまざまな事業分野では、製品開発や技術開発のスピードが加速し、グローバルに企業間の競争が激化しております。このような環境のもとでは、顧客のあらゆる要求に応える新製品の開発、市場を一步リードする製品の開発のための先行投資、需要の増減に直ちに対応できる設備投資等の柔軟性の確保が不可欠です。これらのダイナミックな企業行動と「技術開発力の強化」の推進を支えるために、当社グループでは財務の健全性と資金調達機の機動性の維持・強化に努めております。

当社グループは「財務体質の強化」を主要な経営方針の一つとし、ネット有利子負債を1,000億円水準(当会計年度末114,214百万円)に維持する中期的な目標を設けております。設備投資については、成長事業では積極的な拡大投資を行う一方で、効果的な投資計画による資産の効率活用を徹底し、総資産の圧縮、設備投資の抑制及び負債の削減等を進めてまいります。

また、当社では、機動的な資金調達のために、格付機関より100億円を発行限度額とする短期社債の格付を受けております。さらに資金調達基盤の安定性の維持・強化を目的として、内外の金融機関との良好な関係を維持するほか、100億円のコミットメントライン契約を締結するなど、流動性に関するリスク・マネージメントには万全の体制を構築しております。

#### 当社格付

2012年5月現在

	長期格付	短期格付
日本格付研究所(JCR)	A	J-1
格付投資情報センター(R&I)	A-	a-1

### 設備投資

設備投資につきましては、成長事業では積極的な拡大投資を行う一方で、需要の変化に対応した効率的な投資の実施に努めております。当社グループが当会計年度に実施しました設備投資は、機械加工品事業8,501百万円、回転機器事業7,462百万円、電子機器事業2,647百万円、その他の事業471百万円及び全社(共通)8,225百万円で、総額27,306百万円、前会計年度に比べ29百万円(△0.1%)の減少となりました。

機械加工品事業の主なものは、タイにおけるベアリング等の増産及び合理化対応設備並びにHDD用ピボットアッセンブリーの増産対応設備等です。回転機器事業の主なものは、タイにおけるHDD用スピンドルモーターでの洪水からの復旧投資、及びカンボジア、中国等における情報モーター関連設備等です。電子機器事業の主なものは、タイ、中国における液晶用LEDバックライト及び部品関連設備です。

なお、設備投資金額には、無形固定資産383百万円、及び新規ファイナンス・リース契約による資産増加分348百万円を含んでおります。

次会計年度では、洪水からの復旧投資が本格化することに加えて、成長分野における更なる生産能力増強等により360億円を計画しております。

### 配当金

当社は、経営環境を総合的に勘案し、継続的に安定した利益配分を維持しながら、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元を図ることを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行う方針としております。

剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会であり、中間配当については取締役会です。

当会計年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり7円の配当(うち中間配当3円)といたしました。この結果、当会計年度の連結配当性向は44.8%となりました。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・製造開発体制を強化し、更には、グローバル戦略の展開をはかるために有効投資してまいりたいと考えております。

## フリーキャッシュ・フロー

当会計年度のフリーキャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合算した額）は、前会計年度に比べ4,593百万円減少し、8,785百万円の支出となりました。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、20,233百万円の収入で前会計年度に比べ4,206百万円（△17.2%）収入が減少しました。これは、たな卸資産の増加額が△5,539百万円（△は増加）と前会計年度に比べて4,468百万円支出が減少したことに加え、売上債権の増加額が△3,651百万円（△は増加）となり前会計年度に比べて3,490百万円支出が減少し、仕入債務の増加額が4,929百万円と前会計年度に比べて2,022百万円収入が増加したものの、税金等調整前当期純利益が5,551百万円と前会計年度に比べ13,105百万円収入が大幅に減少したことが主な要因です。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

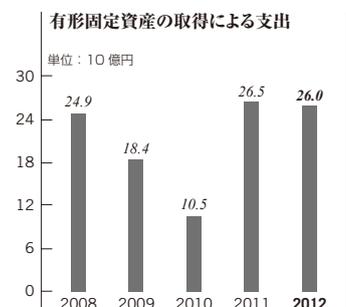
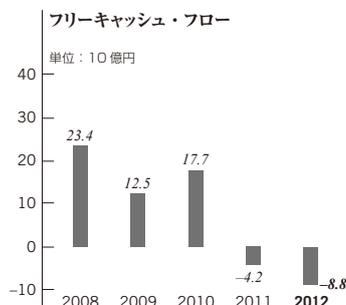
投資活動によるキャッシュ・フローは、29,018百万円の支出と前会計年度に比べ387百万円（1.4%）の増加となりました。定期預金の預入による支出が7,677百万円と前会計年度に比べて3,924百万円増加したものの、定期預金の払戻による収入が4,870百万円と前会計年度に比べて1,555百万円増加し、有形固定資産の取得による支出が25,961百万円と前会計年度に比べて556百万円減少しました。さらに、子会社株式の取得による支出が85百万円と、前会計年度に比べて1,243百万円減少したことが主な要因です。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、4,761百万円の収入で前会計年度に比べ3,223百万円（△40.4%）の減少となりました。これは、借入債務の純増額が9,377百万円と前会計年度に比べて1,436百万円減少したこと、自己株式の取得による支出が2,011百万円と前会計年度に比べて1,988百万円増加したことが主な要因です。

### 現金及び現金同等物

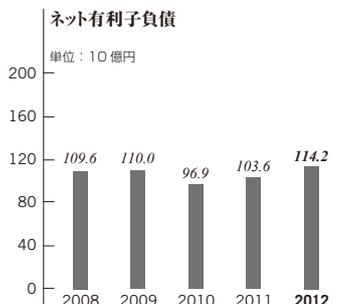
フリーキャッシュ・フローの支出が財務活動によるキャッシュ・フローの収入を上回ったことにより、当会計年度末における現金及び現金同等物の残高は23,366百万円と、前会計年度末に比べ4,256百万円減少しました。



## フリーキャッシュ・フロー

	単位: 百万円				
3月31日に終了した各会計年度	2012	2011	2010	2009	2008
営業活動によるキャッシュ・フロー	¥20,233	¥24,439	¥30,408	¥37,064	¥46,893
投資活動によるキャッシュ・フロー	(29,018)	(28,631)	(12,733)	(24,554)	(23,461)
うち有形固定資産の取得による支出	(25,961)	(26,517)	(10,495)	(18,429)	(24,888)
フリーキャッシュ・フロー	(8,785)	(4,192)	17,675	12,510	23,432

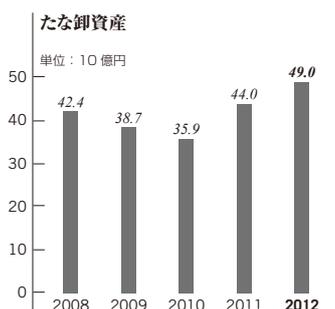
## 資産、負債及び純資産



当会計年度末の総資産は前会計年度末に比べ15,680百万円（5.4%）増加の306,772百万円となりました。その主な要因は、タイ及びカンボジアにおける工場設備増強による建築・構築物の増加、タイ大規模洪水に関する保険金の未収入金による増加、洪水後の生産及び販売の回復に伴うたな卸資産の増加です。

また純資産合計は109,777百万円、自己資本は109,393百万円となり、自己資本比率は35.7%と前会計年度末に比べ1.4ポイント低下しました。

借入債務合計額から現金及び現金同等物並びに定期預金を差し引いたネット有利子負債は、前会計年度末に比べ10,592百万円（10.2%）増加の114,214百万円となりました。ネットD/Eレシオは前会計年度末より増加し1.0倍となりました。



## 資産

現金及び現金同等物は、前会計年度末に比べ4,256百万円減少し23,366百万円となりました。受取手形及び売掛金(営業債権)は、第4四半期での売上高回復により前会計年度末に比べ2,774百万円増加の58,795百万円となりました。受取手形及び売掛金(その他)は、タイ大規模洪水に関する保険金の未収入金等により、前会計年度末に比べ3,972百万円増加の6,145百万円となりました。たな卸資産は、受注増加に伴う在庫の積み増しにより、前会計年度末に比べ5,027百万円増加し、49,025百万円となりました。

これらの結果、流動資産合計は前会計年度末に比べ13,610百万円(9.4%)増加し、157,787百万円となりました。

有形固定資産は、前会計年度末に比べ2,943百万円(2.4%)増加し、127,039百万円となりました。当会計年度の有形固定資産の取得は25,961百万円となり、減価償却費は19,588百万円でした。

無形固定資産は、前会計年度末に比べ1,951百万円(△26.3%)減少し5,479百万円となりました。

投資その他の資産は、繰延税金資産(長期)が567百万円増加したこと等により、前会計年度末に比べ1,014百万円(6.6%)増加し、16,402百万円となりました。

これらの結果、固定資産合計は前会計年度末に比べて2,006百万円(1.4%)増加し、148,920百万円となりました。

## 負債

支払手形及び買掛金(営業債務)は、タイ大規模洪水後の生産の増加による仕入増加により、前会計年度末に比べ4,705百万円増加し、23,336百万円となりました。短期借入債務は前会計年度末に比べて1,211百万円増加し、53,449百万円となりました。1年以内に返済予定の長期借入債務は、借入金15,158百万円が固定負債から振り替えられたものの、借入金の返済12,632百万円及び社債の償還11,500百万円により8,974百万円減少し、15,158百万円となりました。これにより、流動負債合計は前会計年度末に比べ1,150百万円(△1.0%)減少し、115,713百万円となりました。

長期借入債務は、社債10,000百万円の発行、転換社債型新株予約権付社債7,700百万円の発行により前会計年度末に比べ17,094百万円増加の73,937百万円となりました。これにより、固定負債合計は前会計年度末に比べ17,020百万円(26.5%)増加し、81,282百万円となりました。

## 純資産

当会計年度末の純資産合計は、利益剰余金が3,254百万円増加したものの、自己株式1,502百万円の増加や海外関係会社資産の為替換算による目減りが△757百万円あったことなどにより、前会計年度末に比べ190百万円(△0.2%)減少し、109,777百万円となりました。少数株主持分は、前会計年度末に比べ1,665百万円(△81.3%)減少し、384百万円となりました。

## 資産、負債及び純資産

	単位：百万円				
3月31日現在	2012	2011	2010	2009	2008
総資産	¥306,772	¥291,092	¥277,967	¥285,396	¥320,544
現金及び現金同等物	23,366	27,622	24,855	27,895	23,281
定期預金	4,964	1,969	1,652	—	—
流動資産	157,787	144,178	130,004	121,699	148,117
たな卸資産	49,025	43,998	35,912	38,737	42,401
流動負債	115,713	116,863	102,961	112,312	118,321
運転資本	42,074	27,315	27,043	9,387	29,796
有利子負債	142,544	133,213	123,400	137,890	132,852
ネット有利子負債	114,214	103,622	96,893	109,995	109,571
純資産	109,777	109,967	108,381	106,762	131,730
自己資本比率	35.7%	37.1%	38.5%	37.1%	40.7%
D/Eレシオ	1.3倍	1.2倍	1.1倍	1.3倍	1.0倍
ネットD/Eレシオ	1.0倍	0.9倍	0.9倍	1.0倍	0.8倍
1株当たり純資産(円)	288.74	282.03	279.87	271.93	327.25